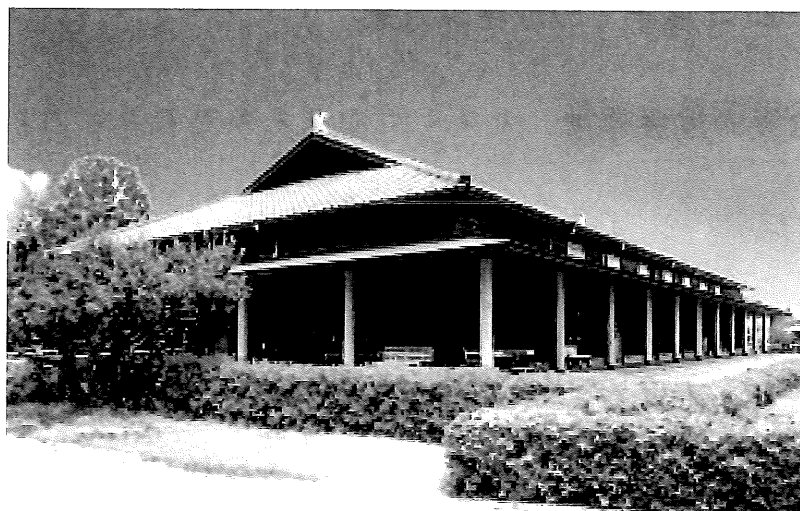


# 兵庫県生きがい創造協会経営ビジョン

【改訂版】

令和6年3月改訂



公益財団法人

兵庫県生きがい創造協会

Hyogo Association for Lifelong Learning

## 目 次

I	経営ビジョン改訂の背景	2
II	改訂ビジョンの位置づけと計画期間	3
III	これまでの取組みの検証	3
IV	2025年度までの取組み方策	5
V	今後の協会運営	11

# I 経営ビジョン改訂の背景

## 1 これまでの経緯

兵庫県生きがい創造協会（以下「協会」という。）は、高齢者のみならず、あらゆる世代の県民の生涯学習の取組みを支援する拠点としてさまざまな取組を図ってきた。協会創立40周年を契機に、進展する少子高齢化やグローバル化など、生涯学習を取り巻く社会環境等が変化する中で新たな事業環境に適切に対応していくため、協会が果たすべき役割やコンセプトを明確にし、協会が目指すべき将来像の実現方策を提示するものとして、2017年11月に「兵庫県いきがい創造協会経営ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を策定した。

このビジョンでは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を展望し、2017年から2020年に取り組みべき具体的方策を整理し、その上で県事業との整合や、市町、NPO法人、民間企業との役割分担に留意しながら、「県民の生涯にわたる学びを応援する先導拠点」の実現に向けた取組み方策を提示した。協会では、2017年以降、このビジョンに基づいて、これまで200事業に取り組んできた。

## 2 コロナ禍での事業展開

こうした中で、2020年1月に、新型コロナウイルスの国内初感染が報告され、国内の社会経済活動が停止状態となり、協会でもいなみ野学園をはじめ各高齢者大学の入学式が9月に延期されるなど、多くの事業が中止・縮小されることとなった。

その後も、国・県等の行動制限の範囲内で感染を広げない対策を最優先にしながら、実施可能な活動のみを実施せざるを得ない状況であったが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類となり、いなみの学園の運営など、協会の各事業も通常どおり実施できるようになってきた。

## 3 協会を取り巻く環境の変化

一方、協会がさまざまな事業を展開していく中で、経済環境や雇用環境の変化に伴い、高齢者の価値観や「生きがい」に関する考え方が変化してきた。いなみ野学園の学生数は、ビジョン策定以降、じりじりと減少し、協会経営は厳しい状況に陥った。

とりわけ、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の拡大により、前述のとおり多くの事業を中止・縮小せざるを得ない中、工夫をしながら協会事業を実施してきたが、学生数の減少に歯止めがかからず、協会経営はさらに悪化している。

また、これまで、協会が指定管理者として管理運営してきた、嬉野台生涯教育センター、但馬文教府、西播磨文化会館、淡路文化会館の各施設が2024年度から民間事業者による施設運営へと移行されることにより、これまで実施してきた

文化関連事業など、一部の事業が協会事業から外れることになり、2024年度以降協会は大きな転換期を迎える。

そこで、このたび2017年から実施してきた事業の検証を行い、ビジョンの目標年次である2025年までの取組の方向性を整理することとした。

## Ⅱ 改訂ビジョンの位置づけと計画期間

### 1 位置づけ

改訂ビジョンは、協会運営の基本指針・協会事業の行動指針として策定する。

2025年を展望した具体的方策を示した、ビジョンの計画期間（2017年～2020年）以降、協会が取組む事業の方向性を提示するものである。

### 2 計画期間

2024年度～2025年度

## Ⅲ これまでの取組みの検証

### 1 概況

ビジョンが掲げる6つのテーマに沿って、これまで協会が取り組んできた200事業の実施状況を検証した結果、事業目的を「概ね達成」したものは75%、当初の内容等を変更したものの、事業目的を「一部達成」したものが18%、事業の中止など事業目的が「未達成」のものが7%であった。

ビジョンが掲げる6つのテーマ	事業数	概ね達成		一部達成		未達成	
		事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
①生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援	46	29	63.0%	12	26.1%	5	10.9%
②地域社会を支える高齢者の学びの支援	36	28	77.8%	6	16.7%	2	5.6%
③未来を担う青少年の育成	18	14	77.8%	2	11.1%	2	11.1%
④生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流	31	25	80.6%	4	12.9%	2	6.5%
⑤地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援	41	36	87.8%	5	12.2%	0	0.0%
⑥経営の健全性・透明性の確保	28	18	64.3%	7	25.0%	3	10.7%
計	200	146	75.0%	38	18.0%	14	7.0%

## 2 テーマ別の主な取組状況

### 【①生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援】

あらゆる世代の県民自らが主体的に取り組む生涯学習、地域づくり活動など、生きがいを創造する活動を支援してきた。事業目的を概ね達成しているものは63%、事業目的の一部達成を含めると89.1%で、概ね順調な事業展開が図られている。

その中で、県内外の様々な学習資源をつなぎ、利用者に必要な情報を提供する「ひょうごインターキャンパス」は、令和4年以降、参画機関数が微減しているが、470を超える機関の多様な学習情報を県民等に発信している。

また、県政との協働による自主自律の地域づくり活動を図る地域リーダーを養成する「ふるさと創生塾」は、他の人材養成の場が充実されてきたことから、その役割を果たしたと判断し、令和4年度末で事業を終了した。

### 【②地域社会を支える高齢者の学びの支援】

幅広い教養の涵養やクラブ活動を通じた仲間づくりなど、高齢者の生きがいづくりを支援してきた。事業目的を達成したものは、一部達成を含め、94.5%で、順調な事業展開が図られている。

とりわけ、協会の基幹事業である「高齢者大学事業」や「ラジオカレッジ」は、学生数や受講者数が減ってはいるものの、高齢者の生きがいづくりの場として重要な役割を果たしている。

### 【③未来を担う青少年の育成】

協会が管理運営する嬉野台生涯教育センターほか3つの文化会館において、青少年活動の支援を行ってきた。事業目的を達成したものは、一部達成を含め、88.9%で、順調な事業展開が図られている。

特に、嬉野台生涯教育センターの「ひょうご冒険教育(HAP)」や各施設の「ふれあいフェスティバル」などの交流事業は、例年参加者も多く、活発な事業展開が図られている。その一方で、「全県野外活動フォーラム」など、コロナ禍等の影響で参加人数が低調な事業もある。

### 【④生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流】

生涯学習や地域づくり活動に対する多彩なニーズに応えるため、多様な生涯学習機関等との連携を進めてきた。事業目的を概ね達成しているものは80.6%で、概ね順調な事業展開が図られている。

その中で、兵庫大学・兵庫大学短期大学部と連携した取組では、生涯学習講座の開設や学校施設の相互利用等を実施しており、また、兵庫教育大学との連

携では、青少年の体験活動や野外活動に関する基本的な理論や実技を修得する教育実習を行うなど、生涯学習に関わる様々な主体との連携事業が計画どおり実施されている。

#### 【⑤地域団体等の参画と協働による地域文化活動の支援】

地域文化活動の振興、地域文化活動団体への支援を通して、地域団体等の参画と協働による地域づくりを推進してきた。事業目的を達成しているものは87.8%で、「うれしの春のフェスティバル」など毎年多くの参加者で賑わうイベントや伝統芸能、音楽、美術など、地域団体や住民の参画と協働による文化事業が各地域で活発に実施されている。

#### 【⑥経営の健全性・透明性の確保】

県民の主体的な学びを先導する生涯学習事業を安定的、持続的に進めていくため、コスト削減や財源確保等に取り組んできた。各施設で行っている「貸館事業」や「オープンキャンパス事業」など、個別事業の達成状況は64.3%となっているものの、協会の抜本的な経営の改善には今なお課題が残っている。

### IV 2025年度までの取組み方策

これまでの協会事業の検証結果に基づき、継続すべき事業については、その課題等を整理した上で、2025年度までの協会事業として、次の3つの柱建てに再編し、着実な推進を図っていく。

検証の結果、テーマ1「生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援」については、事業の達成度が他の項目に比べて15～18ポイントほど低く、今後更なる取組が必要なことから、これまでのテーマ1「生涯学習・地域づくり活動の総合的推進・支援」とテーマ4「生涯学習に関わる多様な主体との交流・連携」を統合し、新たに「1 生涯学習の推進、多様な交流・連携」という柱建てで、生涯学習にかかる取組を一体的に推進することにより、「県民の生涯にわたる学びを応援する先導拠点」として生涯学習を総合的に推進していく協会の姿勢を明確にした。

また、2つ目の柱「2 地域社会を支える学びの支援」では、高齢者大学やラジオカレッジなど、これまで協会が独自に取り組んできた学びの支援のさらなる充実を図るとともに、そのアウトプットである「地域活動の推進」に取り組んでいく。

さらに、3つ目の柱「3 学びを支える経営の健全性・透明性の確保」においては、今年度設置した「兵庫県生きがい創造協会経営改善推進本部」のもとで、さまざまな取組を通して、引き続き、抜本的な協会の経営改善を図っていくこととした。

## 県民の生涯にわたる学びを応援する先導拠点の実現

### 1 生涯学習の推進、多様な連携・交流（育てる・つながる）

県民自らが主体的に取り組む生涯学習への支援とそれを支える生涯学習機関等の連携を強化する。

- (1) 生涯学習の総合的推進
- (2) 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

### 2 地域社会を支える学びの支援（育てる・つながる）

学習成果の地域社会への活用や高齢者大学の充実等を行う。

- (1) 地域社会を支える高齢者等の学びの支援
- (2) 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流〔再掲〕

### 3 経営の健全性・透明性の確保（支える）

協会経営の抜本的改善を図る。

- (1) 安定した収入の確保
- (2) 職員の適正配置等による運営体制の整備
- (3) 協会事業の透明性確保・広報の充実
- (4) 経営改善の推進

## 1 生涯学習の推進、多様な連携・交流

### (1) 生涯学習の総合的支援

#### ① 生涯学習にかかる情報提供・調査研究の実施

##### ア ひょうごインターキャンパス（兵庫県生涯学習の広場）の運営

教育機関・民間企業・行政等様々な生涯学習機関と連携し、多彩で幅広い生涯学習情報を提供するウェブサイト「ひょうごインターキャンパス」を運営する。

##### イ 生涯学習リーダーバンクの運営

生涯学習で得た知識・技能を生かし、ボランティア指導者として学習グループ等の活動支援をしようとする、いなみ野学園研究生の新たな登録を促進するとともに、その利用促進を図り、学びの社会還元を推進する。

##### ウ 生涯学習推進アドバイザー派遣事業の実施

市町や生涯学習関係機関が抱える課題の解決を支援する生涯学習推進アドバイザー派遣事業を実施する。

- エ 生涯学習情報提供・相談の実施  
講座、資格、施設、イベント等に関する各種の生涯学習情報を提供するとともに、生涯学習に関する相談に応える。
  - オ 生涯学習にかかる調査研究  
社会教育、生涯学習をめぐる諸課題や実態等について、関係機関と連携し調査研究を行う。
- ② あらゆる世代の生涯学習を支援する公開講座等の実施
- ア 生涯学習公開講座の実施
    - ・いなみ野学園において、現役世代を含むあらゆる世代の生涯学習に対する意識の高揚を図るため、政治・経済、芸術・文化、防災等について著名な有識者による講座を開催する。
    - ・阪神シニアカレッジにおいて、オープンキャンパスなどの機会を活用し、カレッジで実際に授業を担当する講師等による公開講座を開催する。
  - イ 多世代交流事業の実施  
いなみ野学園の休園日の学舎などを活用し、学園生と地域の多世代住民がともに学び、交流するイベントなどを実施します。
  - ウ 短期集中講座の実施  
通年ではなく短期間の講座へのニーズを踏まえ、いなみ野学園の休園日などの学舎を活用し、くらしに役立つ趣味・知識等の分野の講座や、生活支援分野において活躍するために必要な基礎知識を習得するための講座など、短期集中講座（有料制・複数回開催）を実施する。
  - エ 聴講生制度の実施  
いなみ野学園及び阪神シニアカレッジにおける高齢者大学の講座の一部を公開し、地域づくりについて学ぶきっかけづくりや実践活動の充実につなげる。
  - オ ラジオ講座番組の提供  
著名な講師陣による質の高いラジオ講座を運営し、幅広く県民に生涯学習の機会を提供する。
- ③ 生涯学習関係機関職員研修の実施
- 地域における学習拠点・活動拠点である公民館等の生涯学習関係機関の職員等を対象とする体系的な研修の機会を提供し、地域課題の解決に必要なファシリテート力、コーディネート力等を養成する研修等により、関係職員等の資質向上を図る。



## (2) 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流

生涯学習や地域づくり活動に対する多彩な県民ニーズに応えるため、多様な生涯学習関係機関、活動団体等とのネットワーク化や連携を進める。

### ① 大学等学校教育機関との連携

- ・兵庫大学・兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学等との連携により、生涯学習講座の開設、学校施設の相互利用等を実施する。
- ・健康学科の講座の中で関西労災看護専門学校生との交流を実施する。
- ・公益財団法人兵庫県青少年本部山の学校の生徒による施設内の倒伐木や、交流事業に取り組む。

### ② 公民館等市町関係機関との連携

公民館が主催する生涯学習講座等の講師の紹介、生涯学習推進アドバイザーやいなみ野学園研究生の派遣などにより、市町の生涯学習事業を支援する。

### ③ 博物館等社会教育機関との連携

兵庫陶芸美術館、県立考古博物館及び県立人と自然の博物館との連携により、高齢者大学への講師派遣、各施設の実施事業への積極的な参加等を実施する。

### ④ 高齢者大学等関係組織との連携

- ・いなみ野学園同窓研修会を高齢者大学卒業生の生涯学習機関と位置づけ、講師としての研究生等の紹介を通じて研修活動の充実に協力していく。  
あわせて、協会の協働先として、事業実施に協力を求めることとし、「子育て応援事業」の共同実施を働き掛ける。
- ・ラジカレ友の会の組織率向上や運営支援を行うとともに、地方スクーリングの機会を通じて、各友の会の会員と職員との意見交換会を実施する。
- ・阪神シニアカレッジ同窓会が実施する講座への講師紹介など、相互に連携を進める。

### ⑤ 広域ネットワーク組織との連携

兵庫県公民館連合会等の広域ネットワーク組織との連携を強化するとともに、全国明るい長寿社会づくり推進機構連絡協議会等の全国ネットワーク組織や関西・首都圏シニア大学校等の広域を越えたネットワーク組織との連携を強化する。

### ⑥ NPO、社会福祉協議会等地域活動団体との連携

ボランティア活動の場の提供、実践体験講座の支援等に取り組むボランティアセンターを運営する市町社会福祉協議会、NPOを育成する中間支援団体等との連携を進める。

- ⑦ 学園の魅力を活かした地域住民との交流  
学園の魅力ある資源を活かした陶芸及び園芸の地域開放型講座や「親子陶芸教室」を継続的に実施する。

## 2 地域社会を支える学びの支援

### (1) 地域社会を支える高齢者等の学びの支援

#### ① 高齢者大学事業の充実

幅広い教養の涵養やクラブ活動を通じた仲間づくりなど、引き続き高齢者の生きがいづくりを支援するとともに、学習成果を地域社会で生かす取組みの強化や聴講生制度の拡充など、高齢者大学事業の充実を図る。また、いなみ野学園・阪神シニアカレッジそれぞれが立地する地域の特色、施設の状況、学生の学習ニーズ等を踏まえ、それぞれの個性を生かした先進的な講座運営を図る。

#### ② ひょうごラジオカレッジ事業の実施

著名な講師陣により発信する質の高いラジオ講座を運営し、幅広く県民に生涯学習の機会を提供するとともに、中央・地方スクーリング等を通じた学友との交流の場の提供など、ラジオカレッジの魅力を積極的に発信するとともに、受講生のさらなる拡大を図っていく。

#### ③ 地域づくり活動の推進と支援

卒業生等へのボランティア情報提供やボランティア団体の創設・運営等を支援する「地域活動支援センター」を運営し、県高齢者大学卒業生等が行う地域づくり活動を促進する。

#### ④ 高齢者の交流・健康づくり活動の広域的展開・場の提供

ツウゲットボール等のシニアスポーツの普及、全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣を行い、高齢者の交流・健康づくり活動を広域的に展開する。

### (2) 生涯学習に関わる多様な主体との連携・交流 [再掲]

多様な生涯学習関係機関、活動団体等とのネットワーク化や連携により、生涯学習講座の提供や地域づくり活動を支援する多彩な情報の発信を進める。

## 3 経営の健全性・透明性の確保

県民の主体的な学びを先導する生涯学習事業を、県民の信頼を得ながら、安定的、持続的に進めるとともに、「兵庫県生きがい創造協会経営改善推進本部会議」のもとで、経営の健全性・透明性の確保に努める。

### (1) 安定した収入の確保

#### ① 高齢者大学入学者の確保

応募者数が減少傾向にあることから、魅力的なカリキュラムの設定など、

高齢者大学の魅力向上を図り、入学者定員の確保に努める。

また、入学者募集の際に効果的な口コミによる周知を図るため、学生・卒業生等へ的高齢者大学に関する定期的な情報提供を行うほか、PR効果の高いホームページ、フェイスブック、マスメディアの活用など、効果的なPRに努め、認知度の向上を図る。

② 適正な受益者負担の徴収

協会事業に係る経費について、講座充実費や実習費など、適正な受益者負担を求める。

③ 寄付募集の推進

ホームページ等で広く周知しながら、在校生等に寄付募集を働きかける。

④ オープンキャンパスの開催

施設の見学を通じて入学志望を高めてもらうため、オープンキャンパスを開催する。

⑤ 自主事業の収益の確保

ア 高齢者手づくりの店

高齢者が、趣味、創作活動として製作した手工芸品や民芸品、育成した野菜・花などを販売する場として、民間事業者に委託して運営する。

イ 高齢者園芸センター

高齢者が土と親しみ作物を育てることを通じて健康を増進するとともに、地域や世代間の心のふれあいと交流を図る場として、指導者付貸農園（ファミリーファーム）を運営する。

ウ 高齢者陶芸の村

高齢者が作陶活動を通じて、仲間と共に生きがいを創造する場として、会員の自主運営により実施する。

(2) 職員の適正配置等による運営体制の整備

長期的視点で事業を計画的、継続的に執行することができるよう職員の適正配置等による運営を行うとともに、高齢者大学のクラス運営等のルーティン業務を運営サポーター等による自立的運営に移行するなど、高齢者が高齢者を支援する体制で運営を行う。

(3) 協会事業の透明性確保・広報の充実

① 協会事業の見える化

ア 協会ホームページで、組織・収支状況・経営方針・事業内容・イベント情報などを定期的に発信する。

イ ニュースレター「生きがい通信」（協会本部）

高齢者の生きがいと健康づくりに関する情報などをニュースレターとしてホームページに掲載することにより、地域社会への貢献についての県民の意識啓発を図るとともに協会事業の内容を積極的に発信する。

② マスメディアとの連携

ラジオや新聞等のマスメディアの協力を得ながら、当協会及び協会事業の情報発信を行う。

③ いなみ野学園情報番組の制作・発信

ア 地域ケーブルテレビ局「BAN-BAN テレビ」の協力を得て、大学院講座学生等の自主制作により放映している番組「播磨まちかどニュース with いなみ野学園」への応援を通じて、学園行事等を情報発信する。

イ 学生の協力を得て、学園ホームページを活用した「播磨まちかどニュース with いなみ野学園（瓦版）」を発行し、学園の活動や魅力を情報発信する。

④ ホームページの運営

可能な限りの情報公開を目指すとともに、わかりやすく、親しみやすい、身近に感じてもらえる施設像の情報発信に努める。

(4) 経営改善の推進

健全な財務基盤を確立するため、実施事業の見直しや経営効率化に向けた取り組みを進める。

## V 今後の協会運営

2024年(令和6年)4月から、文化会館4施設の指定管理が民間事業者に移行されるため、これまでの協会の事業規模は縮小され、協会は事業面・経営面で新たな局面を迎える。

そのため、このたびビジョンを改訂し、ビジョンの目標年次である2025年度までの当面の取組方策の必要な見直しを行ったが、今後の、少子高齢化の進展、人口減少、生涯学習に関する価値観の多様化、さらには公社改革で示される方向性など、取り巻く環境の変化等を踏まえた、協会のあり方を模索する必要がある。

特に長寿化の進展では、平均寿命は2021年(令和3年)現在、男性85.89歳、女性87.57歳(1970年(昭和45年)：男性69.31歳、女性74.66歳)となり、2007年(平成19年)に生まれた子供の半数が107歳よりも長く生きると言われ、人生100年時代は現実になっている。

さらに働く高齢者も年々増加しており、2022年(令和4年)の就業率は10年前の2012年(平成24年)と比較して、60～64歳で15.3ポイント上昇し73.0%に、65～69歳で13.7ポイント上昇し50.8%となっている。

こうした状況の中、人生100年時代は同一年齢での単線的な学びや進路選択を前提とした人生のモデルから、一人ひとりの学ぶ時期や進路が複線化する人生のマルチステージモデルへと転換することが予測され、生涯学習の必要性が高まっていると言われている。

一方、コロナ禍で三密回避や人流抑制が求められる中、リモートワークやワーケーションなど多様な働き方とともに、生活スタイルや価値観は変化しており、仕事

と趣味など自分のやりたいことが両立できる日常を実現し社会との関係も良好な状態で、自分らしく豊かに生きることに幸せを感じる。このような「幸福感」が価値観の基準になりつつあるといわれている。また、特に高齢者には、運動はもとより地域に出て人とのつながりの中で活動を続けることが「生きがい」となり、フレイル予防にも大切であることが再認識された。

2027年(令和9年)に協会は創立50年の節目を迎えるが、この改訂ビジョンを着実に実施するとともに、さらなる高齢者大学のあり方やあらゆる世代の生涯学習をどのように支援していくのか、これまでの協会の取り組みを踏まえ、継承すべきものは継承し、社会情勢等の取り巻く環境の変化の中で見直すべきものは不断の見直しを行い、持続可能な協会運営を図っていく必要がある。

